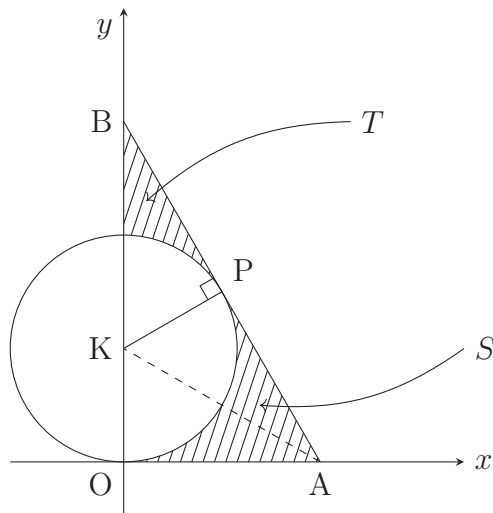


[ I ]



円  $C$  の中心を  $K$ ,  $C$  と  $l$  の接点を  $P$ ,  $l$  と  $x$  軸,  $y$  軸との交点をそれぞれ  $A$ ,  $B$  とし,  $\angle OAB = 2\theta$  とする.  $A$  と  $B$  の位置関係から  $0 < 2\theta < \frac{\pi}{2}$ , すなわち  $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$  である.

ここで,

$$\triangle OAB = S + T + \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \pi = S + T + \frac{\pi}{2}$$

より,  $S + T$  が最小となるのは,  $\triangle OAB$  の面積が最小となるときである.

いま,  $OK = 1$  より,

$$OA = \frac{OK}{\tan \theta} = \frac{1}{\tan \theta}$$

$$OB = OA \tan 2\theta = \frac{\tan 2\theta}{\tan \theta} = \frac{2}{1 - \tan^2 \theta}$$

であるから,

$$\triangle OAB = \frac{1}{2} OA \cdot OB = \frac{1}{\tan \theta (1 - \tan^2 \theta)}$$

である.

$0 < \theta < \frac{\pi}{4}$  より,  $\tan \theta (1 - \tan^2 \theta) > 0$  であるから,  $\triangle OAB$  が最小となるのは,  $\tan \theta (1 - \tan^2 \theta)$  が最大となるときであり, これは  $t = \tan \theta$  とおくと,  $f(t) = t(1 - t^2)$  が  $0 < t < 1$  の範囲で最大となるときである.

$$f'(t) = 1 - 3t^2 = -3 \left( t - \frac{1}{\sqrt{3}} \right) \left( t + \frac{1}{\sqrt{3}} \right)$$

より,  $f(t)$  の増減は次のようになる.

$t$	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	...	(1)
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		↗		↘	

よって、 $f(t)$  は  $t = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のとき最大となるので、 $S + T$  が最小となるのは、

$$t = \tan \theta = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

すなわち、

$$\theta = \frac{\pi}{6}$$

のときである。

このとき、 $\angle OAB = \frac{\pi}{3}$  であるから、 $\angle OBA = \frac{\pi}{6}$  であり、 $KP \perp AB$  より

$$\angle BKP = \pi - \frac{\pi}{6} - \frac{\pi}{2} = \frac{\pi}{3}$$

である。また、 $\triangle OAK \equiv \triangle PAK$  であるから

$$\angle PKA = \angle OKA = \frac{\pi}{3}$$

である。さらに、

$$OA = \frac{1}{\tan \frac{\pi}{6}} = \sqrt{3}$$

$$OB = \sqrt{3} \tan \frac{\pi}{3} = 3$$

であり、 $BK = AK = 2$  であるから、 $\triangle BKP \equiv \triangle AKP$  である。

よって、 $\frac{1}{2}S = T$ 、すなわち  $S = 2T$  が成り立つので、

$$\begin{aligned} S - T &= 2T - T = T \\ &= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2 \cdot \sin \frac{\pi}{3} - \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{\pi}{3} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{6} \end{aligned} \quad \dots\dots (答)$$

である。

[ II ]

- (1) 自然数を3で割った余りは、各位の数の和を3で割った余りに等しい。また、1と4は3で割って1余る数であり、2は3で割って2余る数である。

よって、 $n+1$ 桁の自然数で3の倍数となるのは、

- $n$ 桁の自然数で3で割って1余る数に、 $n+1$ 桁目として2が追加される
- $n$ 桁の自然数で3で割って2余る数に、 $n+1$ 桁目として1または4が追加される

のいずれかのときである。よって  $a_{n+1}$  は、

$$a_{n+1} = b_n + 2c_n \quad \dots\dots (\text{答})$$

と表され、同様に考えて、 $b_{n+1}$ ,  $c_{n+1}$  は、

$$b_{n+1} = c_n + 2a_n, \quad c_{n+1} = a_n + 2b_n \quad \dots\dots (\text{答})$$

と表される。

- (2) (1)の結果より、

$$\begin{aligned} a_{n+2} &= b_{n+1} + 2c_{n+1} \\ &= (c_n + 2a_n) + 2(a_n + 2b_n) \\ &= 4a_n + 4b_n + c_n \\ &= 4(a_n + b_n + c_n) - 3c_n \end{aligned}$$

である。

ここで、 $a_n + b_n + c_n$  は3つの数字を重複を許して  $n$  個並べてできる  $n$  桁の自然数の総数であるから、

$$a_n + b_n + c_n = 3^n$$

である。よって、 $a_{n+2}$  は

$$a_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3c_n \quad \dots\dots (\text{答})$$

と表される。

- (3) (2)と同様に  $b_{n+2}$ ,  $c_{n+2}$  について考えると、

$$b_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3a_n, \quad c_{n+2} = 4 \cdot 3^n - 3b_n$$

が成り立つので、 $a_{n+6}$  は、

$$\begin{aligned} a_{n+6} &= 4 \cdot 3^{n+4} - 3c_{n+4} \\ &= 4 \cdot 3^{n+4} - 3(4 \cdot 3^{n+2} - 3b_{n+2}) \\ &= 36 \cdot 3^{n+2} - 12 \cdot 3^{n+2} + 9(4 \cdot 3^n - 3a_n) \\ &= 24 \cdot 3^{n+2} + 36 \cdot 3^n - 27a_n \\ &= -27a_n + 28 \cdot 3^{n+2} \quad \dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

と表される。

(4)  $a_{n+6} = -27a_n + 28 \cdot 3^{n+2}$  の両辺を  $3^{n+6}$  で割って変形すると,

$$\frac{a_{n+6}}{3^{n+6}} = -\frac{1}{27} \cdot \frac{a_n}{3^n} + \frac{28}{81}$$

すなわち,

$$\frac{a_{n+6}}{3^{n+6}} - \frac{1}{3} = -\frac{1}{27} \left( \frac{a_n}{3^n} - \frac{1}{3} \right)$$

を得る. よって,  $a_1 = 0$  を用い,

$$\frac{a_{6m+1}}{3^{6m+1}} - \frac{1}{3} = \left( \frac{a_1}{3^1} - \frac{1}{3} \right) \cdot \left( -\frac{1}{27} \right)^m$$

すなわち,

$$\frac{a_{6m+1}}{3^{6m+1}} = \frac{1}{3} \left\{ 1 - \left( -\frac{1}{27} \right)^m \right\}$$

となるから,  $a_{6m+1}$  は

$$a_{6m+1} = 3^{6m} - (-3)^{3m} \quad \dots\dots (答)$$

と表される.

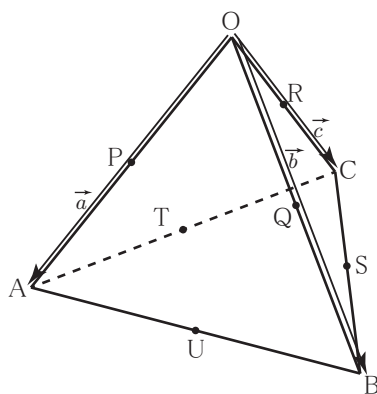
[III]

$\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OB} = \vec{b}$ ,  $\vec{OC} = \vec{c}$  とおく. このとき,

$$\vec{OP} = \frac{1}{2}\vec{a}, \vec{OQ} = \frac{1}{2}\vec{b}, \vec{OR} = \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\vec{OS} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}, \vec{OT} = \frac{\vec{c} + \vec{a}}{2}, \vec{OU} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

である.



$$(1) \quad \frac{\vec{OP} + \vec{OS}}{2} = \frac{\vec{OQ} + \vec{OT}}{2} = \frac{\vec{OR} + \vec{OU}}{2} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4}$$

であるから, PS, QT, RU の中点は一致する.

したがって, PS, QT, RU は 1 点で交わる.

(証明終わり)

$$(2) \quad OA^2 + BC^2 = OB^2 + CA^2 = OC^2 + AB^2 \text{ より,}$$

$$|\vec{a}|^2 + |\vec{c} - \vec{b}|^2 = |\vec{b}|^2 + |\vec{a} - \vec{c}|^2 = |\vec{c}|^2 + |\vec{b} - \vec{a}|^2$$

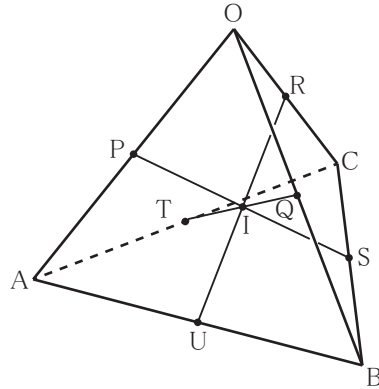
$$\therefore -2\vec{b} \cdot \vec{c} = -2\vec{c} \cdot \vec{a} = -2\vec{c} \cdot \vec{b}$$

したがって,

$$\vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = \vec{a} \cdot \vec{b} (=d \text{ とおく})$$

である.

次に, PS, QT, RU の中点を I とおく.



(1) より  $\vec{OI} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4}$  であるから,

$$|\vec{IP}|^2 = \left| \frac{1}{2}\vec{a} - \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4} \right|^2 = \left| \frac{\vec{a} - \vec{b} - \vec{c}}{4} \right|^2$$

$$= \frac{1}{16} (|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2d) \quad \dots\dots ①$$

同様に,

$$|\vec{IQ}|^2 = \left| \frac{-\vec{a} + \vec{b} - \vec{c}}{4} \right|^2 = \frac{1}{16} (|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2d)$$

$$|\vec{IR}|^2 = \left| \frac{-\vec{a} - \vec{b} + \vec{c}}{4} \right|^2 = \frac{1}{16} (|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2d)$$

であるから,  $|\vec{IP}| = |\vec{IQ}| = |\vec{IR}|$  である.

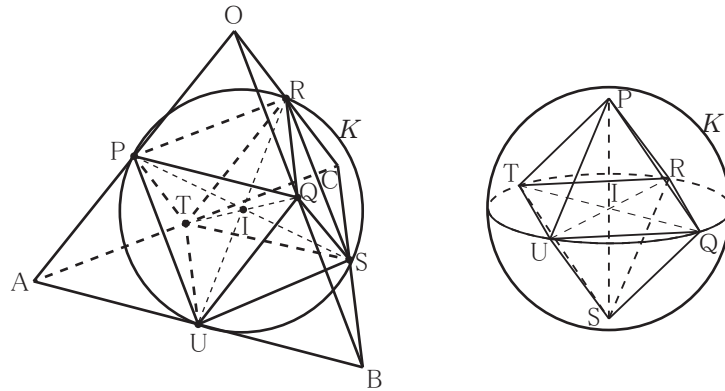
また, I は PS, QT, RU の中点であるから,

$$|\vec{IP}| = |\vec{IS}|, \quad |\vec{IQ}| = |\vec{IT}|, \quad |\vec{IR}| = |\vec{IU}|$$

であり, I から 6 点 P, Q, R, S, T, U までの距離は等しいので, この 6 点は同一球面上にある.

(証明終わり)

- (3) (2) より 6 点 P, Q, R, S, T, U は I を中心とする球面 (これを  $K$  とする) 上にあり, PS, QT, RU はいずれも  $K$  の直径である.



4点 Q, R, T, U は K の大円上にあり,  $\overrightarrow{QU} = \overrightarrow{RT} = \frac{1}{2}\overrightarrow{a}$  であるから, 四角形 QRTU は長方形である.

$$QU = \frac{1}{2}OA = \frac{1}{2}a, \quad QR = \frac{1}{2}BC = \frac{1}{2}k$$

であるから, 長方形の面積は,

$$QU \cdot QR = \frac{1}{4}ak$$

である.

また,

$$\begin{aligned} PS &= QT = \sqrt{QU^2 + QR^2} \\ &= \frac{1}{2}\sqrt{a^2 + k^2} \end{aligned}$$

である.

与えられた条件より,  $PS \perp OA$ ,  $PS \perp BC$  であるから,

$$PS \perp (\text{長方形 QRTU})$$

であり,

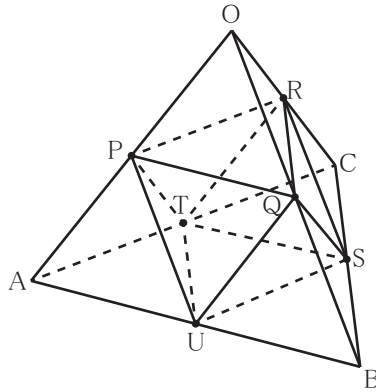
$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \cdot (\text{長方形 QRTU の面積}) \cdot PS \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{4}ak \cdot \frac{1}{2}\sqrt{k^2 + a^2} \\ &= \frac{1}{24}ak\sqrt{k^2 + a^2} \quad \dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

と表せる.

[別解]

四面体 OABC の体積を  $W$  とおく. 4つの四面体 OPQR, APTU, BQSU,

CRTS はいずれも四面体 OABC と相似で、相似比は  $\frac{1}{2}$  であるので、それぞれの体積はどれも  $\frac{1}{8}W$  である。



したがって、

$$V = W - \frac{1}{8}W \times 4 = \frac{1}{2}W$$

である。

次に、 $\overrightarrow{PS} \perp \overrightarrow{OA}$  より、 $\overrightarrow{PS} \cdot \overrightarrow{OA} = 0$  であるから、

$$\frac{\vec{b} + \vec{c} - \vec{a}}{2} \cdot \vec{a} = 0$$

$$\vec{b} \cdot \vec{a} + \vec{c} \cdot \vec{a} - |\vec{a}|^2 = 0$$

$$2d - a^2 = 0 \quad (\because |\vec{a}| = a)$$

$$\therefore d = \frac{a^2}{2} \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

また、 $\overrightarrow{PS} \perp \overrightarrow{BC}$  より、 $\overrightarrow{PS} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$  であるから、

$$\frac{\vec{b} + \vec{c} - \vec{a}}{2} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = 0$$

$$|\vec{c}|^2 - |\vec{b}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$\therefore |\vec{b}| = |\vec{c}| \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

また、 $BC = k$  より、

$$|\vec{c} - \vec{b}|^2 = k^2$$

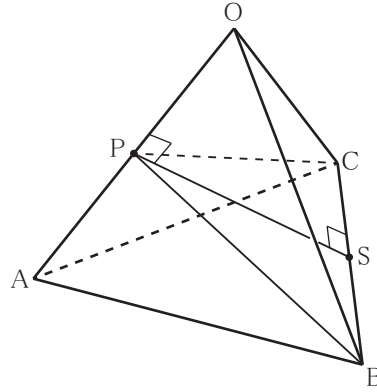
$$|\vec{b}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{c}|^2 = k^2$$

であり、②、③ より、

$$|\vec{b}|^2 = |\vec{c}|^2 = \frac{k^2 + a^2}{2} \quad \dots\dots \textcircled{4}$$



を得る.



よって,

$$\begin{aligned}
 |\vec{PS}|^2 &= \left| \frac{\vec{b} + \vec{c} - \vec{a}}{2} \right|^2 \\
 &= \frac{1}{4} (|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + 2d) \\
 &= \frac{1}{4} \left( a^2 + 2 \cdot \frac{k^2 + a^2}{2} - 2 \cdot \frac{a^2}{2} \right) \quad (\because \textcircled{2}, \textcircled{4}) \\
 &= \frac{1}{4} (k^2 + a^2)
 \end{aligned}$$

より,  $|\vec{PS}| = \frac{1}{2} \sqrt{k^2 + a^2}$  である.

次に,  $\vec{BC} \cdot \vec{OA} = (\vec{c} - \vec{b}) \cdot \vec{a} = 0$  であるから,  $\vec{BC} \perp \vec{OA}$ , これと  $\vec{PS} \perp \vec{OA}$  より,

$$(\text{平面 PBC}) \perp \vec{OA}$$

であるから,

$$\begin{aligned}
 W &= \frac{1}{3} \cdot \Delta \text{PBC} \cdot |\vec{OA}| \\
 &= \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} k \cdot \frac{1}{2} \sqrt{k^2 + a^2} \cdot a \\
 &= \frac{1}{12} ak \sqrt{k^2 + a^2}
 \end{aligned}$$

であり,

$$V = \frac{1}{2} W = \frac{1}{24} ak \sqrt{k^2 + a^2} \quad \dots\dots (\text{答})$$

と表される.

(4)  $k = 1$  のとき,

$$V = \frac{1}{24}a\sqrt{1+a^2}$$

である. ここで,  $a$  は  $a > 0$  を満たす任意の値をとることができる ( $\rightarrow$  (注))  
から,  $V$  はいくらでも大きい値をとれるので,

$V$  の最大値は存在しない ..... (答)

(注)  $k = 1$  のとき, ②, ③, ④ より,

$$|\vec{a}| = a, \quad |\vec{b}| = |\vec{c}| = \sqrt{\frac{1+a^2}{2}}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = \frac{a^2}{2}$$

である. 任意の正の数  $a$  に対し, これらを満たす  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  は存在するから,  
 $a$  は任意の正の値をとることができる.

[ IV ]

- (1) 3回試合を行い  $W$  が連敗するのは、試合に勝つチームを1試合目から順に並べたときに  $KKW$ ,  $WKK$ ,  $KKK$  となる場合である。したがって、

$$p_3 = 1 - 3 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{5}{8} \quad \dots\dots (答)$$

である。

- (2)  $n+2$ 回試合を行い  $W$  が連敗しないのは、次の2つの場合に分けることができる。

- 1試合目に  $W$  が勝つ場合、2試合目以降の残り  $n+1$  試合の中で  $W$  が連敗しない
- 1試合目に  $K$  が勝つ場合、2試合目は  $W$  が勝ち、3試合目以降の残り  $n$  試合の中で  $W$  が連敗しない

したがって、

$$p_{n+2} = \frac{1}{2} \cdot p_{n+1} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} \cdot p_n$$

すなわち

$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_{n+1} + \frac{1}{4}p_n \quad \dots\dots (答)$$

と表される。

- (3)

$$p_{n+2} - \beta p_{n+1} = \alpha(p_{n+1} - \beta p_n) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$p_{n+2} - \alpha p_{n+1} = \beta(p_{n+1} - \alpha p_n) \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

を変形すると、どちらも

$$p_{n+2} = (\alpha + \beta)p_{n+1} - \alpha\beta p_n$$

となるので、求める  $\alpha$ ,  $\beta$  は

$$\alpha + \beta = \frac{1}{2} \quad \text{かつ} \quad \alpha\beta = -\frac{1}{4}$$

を満たす。よって、解と係数の関係より  $\alpha$ ,  $\beta$  は  $t$  の2次方程式  $4t^2 - 2t - 1 = 0$  の2解であり、 $\alpha < \beta$  に注意して、

$$(\alpha, \beta) = \left( \frac{1 - \sqrt{5}}{4}, \frac{1 + \sqrt{5}}{4} \right) \quad \dots\dots (答)$$

である。

(4) ①, ②から

$$p_{n+1} - \beta p_n = (p_3 - \beta p_2)\alpha^{n-2} \dots\dots\dots ③$$

$$p_{n+1} - \alpha p_n = (p_3 - \alpha p_2)\beta^{n-2} \dots\dots\dots ④$$

であり, ④ - ③ より

$$(\beta - \alpha)p_n = (p_3 - \alpha p_2)\beta^{n-2} - (p_3 - \beta p_2)\alpha^{n-2} \dots\dots\dots ⑤$$

を得る. ここで, 2回試合を行い  $W$  が連敗するのは,  $K$  が2連続で勝つ場合のみなので,  $p_2 = 1 - \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{3}{4}$  であることと, (1), (3) の結果を用いると

$$\beta - \alpha = \frac{1 + \sqrt{5}}{4} - \frac{1 - \sqrt{5}}{4} = \frac{\sqrt{5}}{2}$$

$$p_3 - \alpha p_2 = \frac{5}{8} - \frac{1 - \sqrt{5}}{4} \cdot \frac{3}{4} = \frac{7 + 3\sqrt{5}}{16}$$

$$p_3 - \beta p_2 = \frac{5}{8} - \frac{1 + \sqrt{5}}{4} \cdot \frac{3}{4} = \frac{7 - 3\sqrt{5}}{16}$$

であるから, ⑤に代入して

$$\begin{aligned} \frac{\sqrt{5}}{2} p_n &= \frac{7 + 3\sqrt{5}}{16} \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} - \frac{7 - 3\sqrt{5}}{16} \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} \\ \therefore p_n &= \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \frac{7 + 3\sqrt{5}}{8} \cdot \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} - \frac{7 - 3\sqrt{5}}{8} \cdot \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4}\right)^{n-2} \right\} \end{aligned} \dots\dots\dots (\text{答})$$

である.

(注)  $p_1 = 1$  とすれば, (2) の漸化式は  $n \geq 1$  に対し成り立つので①, ②から

$$p_{n+1} - \beta p_n = (p_2 - \beta p_1)\alpha^{n-1}$$

$$p_{n+1} - \alpha p_n = (p_2 - \alpha p_1)\beta^{n-1}$$

と変形でき, ここから  $p_n$  を求めてもよい. その場合は,

$$p_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \frac{2 + \sqrt{5}}{2} \cdot \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{4}\right)^{n-1} - \frac{2 - \sqrt{5}}{2} \cdot \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{4}\right)^{n-1} \right\}$$

となる.

[ V ]

(1) 2倍角の公式を用いて変形すると,

$$\begin{aligned} y &= -\cos t - \frac{1}{2}(2\cos^2 t - 1) - \frac{1}{2} \\ &= -\cos^2 t - \cos t \\ &= -\left(\cos t + \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4} \end{aligned}$$

となる.  $t$ が  $0 \leq t \leq \pi$  を動くとき,  $\cos t$ の値域は  $-1 \leq \cos t \leq 1$  であるから,

$$\text{最大値} = \frac{1}{4} \quad \text{最小値} = -2 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(2)  $y$ を  $t$ で微分すると,

$$\frac{dy}{dt} = \sin t + \sin 2t = \sin t(1 + 2\cos t)$$

となる. “ $0 \leq t \leq \pi$ において  $\sin t \geq 0$ ” に注意すると,  $\frac{dy}{dt} < 0$  となる  $t$ の範囲は,

$$1 + 2\cos t < 0 \quad \text{かつ} \quad \sin t \neq 0$$

すなわち,

$$\cos t < -\frac{1}{2} \quad \text{かつ} \quad \sin t \neq 0$$

より,

$$\frac{2}{3}\pi < t < \pi \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

$x$ を  $t$ で微分すると,

$$\frac{dx}{dt} = \cos t + \cos 2t = 2\cos^2 t + \cos t - 1 = (2\cos t - 1)(\cos t + 1)$$

となる.

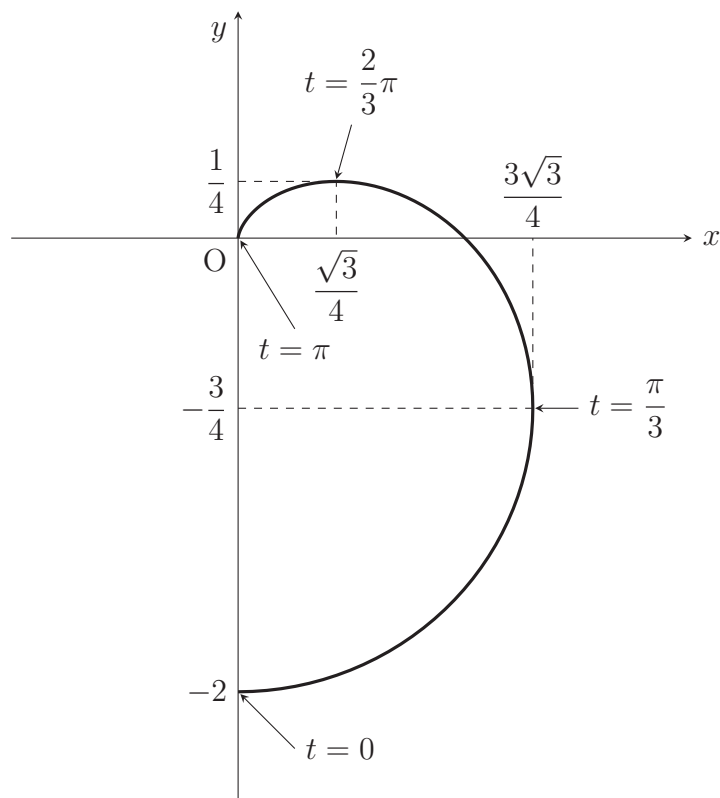
よって,  $x, y$ の  $t$ の増加に伴う増減は次のようになる.

$t$	0	...	$\frac{\pi}{3}$	...	$\frac{2}{3}\pi$	...	$\pi$
$\frac{dx}{dt}$	+	+	0	-	-	-	-
$\frac{dy}{dt}$	+	+	+	+	0	-	-
$x$	0	↗	$\frac{3\sqrt{3}}{4}$	↘	$\frac{\sqrt{3}}{4}$	↘	0
$y$	-2	↗	$-\frac{3}{4}$	↗	$\frac{1}{4}$	↘	0

したがって、点  $(x, y)$  の  $t$  の増加に伴う移動は次のようになる

$t$	0	...	$\frac{\pi}{3}$	...	$\frac{2}{3}\pi$	...	$\pi$
$(x, y)$	$(0, -2)$	$\nearrow$	$\left(\frac{3\sqrt{3}}{4}, -\frac{3}{4}\right)$	$\nwarrow$	$\left(\frac{\sqrt{3}}{4}, \frac{1}{4}\right)$	$\swarrow$	$(0, 0)$

以上より、 $C$  の概形は次のようになる



(3)  $0 \leq t \leq \frac{2}{3}\pi$  における  $x$  を  $x_1$ ,  $\frac{2}{3}\pi \leq t \leq \pi$  における  $x$  を  $x_2$  とすると、(2) の図より、

$$\begin{aligned}
 V &= \pi \int_{-2}^{\frac{1}{4}} x_1^2 dy - \pi \int_0^{\frac{1}{4}} x_2^2 dy \\
 &= \pi \int_0^{\frac{2}{3}\pi} \left( \sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 (\sin t + \sin 2t) dt \\
 &\quad - \pi \int_{\pi}^{\frac{2}{3}\pi} \left( \sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 (\sin t + \sin 2t) dt \\
 &= \pi \int_0^{\pi} \left( \sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 (\sin t + \sin 2t) dt
 \end{aligned}$$

で与えられる。ここで、

$$\begin{aligned} & \left( \sin t + \frac{1}{2} \sin 2t \right)^2 (\sin t + \sin 2t) \\ &= (\sin t + \sin t \cos t)^2 (\sin t + 2 \sin t \cos t) \\ &= \sin^2 t (1 + \cos t)^2 (1 + 2 \cos t) \cdot \sin t \\ &= (1 - \cos^2 t) (1 + \cos t)^2 (1 + 2 \cos t) \cdot \sin t \end{aligned}$$

と変形できるので、 $u = \cos t$  とおくと、

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_1^{-1} (1 - u^2)(1 + u)^2(1 + 2u) (-du) \\ &= \pi \int_{-1}^1 (1 - u^2)(1 + u)^2(1 + 2u) du \\ &= 2\pi \int_0^1 (1 + 4u^2 - 5u^4) du \\ &= 2\pi \left[ u + \frac{4}{3}u^3 - u^5 \right]_0^1 \\ &= \frac{8}{3}\pi \qquad \dots\dots\dots(\text{答}) \end{aligned}$$

である。